

令和7年度あしたのまち・くらしづくり活動賞 主催者賞受賞

住んでいて良かった、住み続けたい町六原

京都府京都市東山区 六原まちづくり委員会

六原学区は、清水寺や祇園に近く、地域内にも六波羅蜜寺が立地する観光地の中にあります。その六原学区におけるまちづくり活動のきっかけは、平成12年に持ち上がった小・中学校の統廃合問題に遡ります。当時、生徒が減少していた5つの小学校と2つの中学校を統廃合して1つの小中一貫校にするという案が京都市より提案されました。各学区(自治連合会)でそれぞれに議論し、六原以外すべての学区が「統廃合反対」を主張しました。六原学区においても様々な意見が出ましたが、最終的には「時代にあらがって反対ばかりしていても仕方ない。受け入れて前向きに考えよう」という結論になりました。するとこの判断が功を奏し、新しい小中一貫校は、唯一賛成した六原学



六原まちづくりラボ：空き家所有者が無償で提供。1ヶ月に1回、専門家による建築相談のほか、様々な活動を行った(2024年所有者死亡により建物が除却)

区内に建設されることとなりました。おかげで地域内に若い家族が引っ越して来るようになりました。

この成功体験は、六原学区におけるまちづくり活動の基本姿勢となりました。つまり、その後に噴出した地域の課題(空き家問題・高齢化問題・民泊問題・オーバーツーリズム問題等)に対して、対立するのではなく、互いに理解し合い歩み寄って解決の糸口を探すという手法をとるようになったのです。

ところで、六原学区の30ヶ町を束ねる六原自治連合会には、民生児童委員・社会福祉協議会・体育振興会・自主防災会等々、数多くの各種団体がありますが、これらの





空き家調査：所有者情報を近所に聞き込み

団体は行政の担当課と縦割りに繋がっていて横方向には情報共有ができておらず、地域の課題を総合的多角的に取り組むことができていないという課題がありました。例えば平成18年から懸案となっていた空き家問題は、高齢化の問題とも深く結びついており、また防犯・防災の問題でもありましたが、この問題を担当できる団体はありませんでした。そこで平成23年、横断的総合的に地域の課題に取り組む「六原まちづくり委員会」が六原自治連合会の下部組織として結成されました。六原まちづくり委員会は、地域から有志が参加するほか、外部から学識・専門家（建築士・不動産事業者等）・行政職員・学生等も受け入れ、年齢や立場に関係なくフラットに意見や提案を述べ合い、一緒に活動をする場となっています。

ただし結成当初には紆余曲折もありました。最初に取り組んだ空き家問題では、京



空き家見守りボランティア：所有者から鍵を預かり、1ヶ月に1回、空き家の換気および雨漏り等の確認を行っている

都市から不動産事業者を派遣してもらいましたが、不動産事業者に対する地域住民の警戒感が激しく、相続のことなど何でも相談できる関係になるまでに4年かかりました。しかしこの4年間で私たちは、信頼関係は立場（職業や役職）で築くわけではなく、結局はその人の人柄であるということを知りました。私たちがこの14年間の活動の中で最も誇れるのは、互いの信頼関係で活動が成り立っているということです。私たちの活動には、コンサルのような仕事で加わっている人はいません。専門家も皆、ボランティアで参加してくれています。専門家も学生も「この地域で学べることがあるから」と言って活動を続けてくれています。外部の人からそのように言ってもらえる地域で



動画配信：住民の迷演技で相続の問題をわかりやすく解説

いられることが何より活動の原動力になっています。

それでは、現在私たちが最も力を入れている活動について紹介します。

まちづくり活動を長く続けていると、委員会メンバーが得た知識を、他の地域住民ともシェアしたいと考えるようになります。そこで平成26年に『空き家の手帖』という冊子を制作し学区内で全戸配付しました。それをさらに展開させ、令和5年からは空き家問題をわかりやすく解説した動画を皆で配信を始めました『六原ちゃんねる』



空き家活用：空き家所有者と5年間かけて信頼関係を構築し活用につながった事例。会の建築士が設計を担当、学生がタイル貼りをおこなった



路地名を陶板：路地の1本1本に名前を付け、陶板で表示した。消防署にも情報共有され、緊急出動の際にわかりやすくなった



空き家活用見学ツアー：六原の活動への問合せが多くなったため、地域外の興味のある人たちにツアーを実施

<https://www.youtube.com/@rokuhara-channel>。脚本・演出・演技・編集も自分たちで行ったこの動画は、何よりメンバー内で盛り上がったおり、完成試写会では素人俳優の迷演技をげらげら笑いながら観るのが楽しみとなっています。皆の好きが高じて毎年制作することになり、3年で計9本を制作しました(今年度も制作予定です)。チーム対抗で制作しているため、完成試写会で授与される主演俳優賞を誰が射止めるかで大いに盛り上がっています。

まちづくりは地道な活動の積み重ねであり、他の課題が出て来たからと言って前からの課題が無くなるわけではなく、全ての活動が並行して進んでいきます。ときに果



オーバーツーリズム対策ワークショップ：チームに分かれてそれぞれの町内での問題を検討

てしない課題の山積にモチベーションが下がることもあります。このように楽しんで取り組める要素が活動の持続性に関わると実感しています。

誌面の都合により、地道な一つ一つの活動内容(空き家対策・高齢者対策・民泊対策・オーバーツーリズム対策等)について、ここで書くことはできなくなりました。ただ、それぞれの活動においても(民泊事業者や観光客に対しても)、他者を排除するのではなく話し合っ、六原のことを理解してもらいながら共生することを目指して活動しています。信頼関係を築きながら楽しく皆で地域を住み継いで行く、それが私たちの目指すまちづくり活動です。

(六原まちづくり委員会委員長 菅谷幸弘)